

中国一人っ子世代の親子・親族関係②  
——地方都市出身の女性の就職と、就職における親との関係性——

陳 予茜 (明治大学・院)

### 1. 背景と目的

中国では、女性の学歴が次第に向上し、高学歴の女性が増えている(張・沈 2016)。とりわけ、本報告が注目する一人っ子女性は家族の唯一の子どもとして、親から多大な期待をかけられ、多くの教育投資を受けている(Xu and Yeung 2013)。しかしその一方で、市場経済の進展により、女性は労働市場で差別されたり、仕事と家庭の両立に迫られたりし、就職においては不利な立場に置かれていることが指摘されてきた(Zuo 2012)。

このように一人っ子女性は公私で矛盾した環境に置かれ、親の投資と関心を一身に受けながら、高い成績とよい就職先を期待されている。だが、一旦社会に出ると、彼女たちは女性であることを理由に社会から差別される恐れがあり、就職が必ずしも親子の期待どおりになるとは限らない。また近年では、大都市が大きな発展を遂げている一方、人口過剰、ジェンダー不平等、階層格差という問題がますます顕著になっている(“城市化発展研究”課題組 2011)。そのため、地方都市出身の若者は学業を終えたあと、従来のように大都市に残って就職することを選択せず、地元、またはほかの地方都市に「還流」という現象が起きていると指摘されている(潘 2013)。

このような社会背景を踏まえて、本報告は中国の一つの地方都市に在住する一人っ子女性を例とし、彼女たちの就職プロセス、実態、および親からの関わりの有無について考察する。

### 2. 対象と方法

本報告は、2019年と2020年で実施したインタビュー調査のデータを用いる。調査対象は親が健在で、子持ちの有配偶者一人っ子女性、計30名である。また本報告で使用するデータはすべて対象者の許可を得て録音し、日本語に翻訳しながら文字起こししたものである。

### 3. 結果

対象者の多くは地元以外の地域で学位をとったにもかかわらず、そのほとんどが地元に戻って就職している。理由として、生活コストや競争という現実な理由のほか、親の希望、本人の一人っ子意識、および親への精神的、経済的な依頼が挙げられた。また就職のパートナーからみれば、半数以上の対象者は自分で仕事を探したが、親は彼女たちの就職に対する自らの期待や条件を口にしたり、自分の期待通りに就職させる傾向がみられた。そして親子の両方が仕事の安定性を重視するとはいえ、親は娘が「体制内」の職業に就くことを求め、公務員を最も理想的な職業だと考えている。最後に、転職に関しては、女性は家族のために転職する傾向にあるという先行研究の指摘とは異なり、本報告の対象者は結婚前に、キャリアアップするために転職するという特徴がある。これらの結果から、本報告の対象者は、一人っ子、女性、および地方都市出身という三つの要因からそれぞれ影響を受けていることが検証された。また、彼女たちは親からのサポートを得る代わりに、親の期待に応じたり、親の気持ちを配慮したりする必要があり、親子関係は互いに納得できるように調整する必要があることが示唆される。

#### <参考文献>

“城市化発展研究”課題組, 2011, 「中国城市化的出路在中小城市」『调研世界』(3):6-11.

潘华, 2013, 「“回流式”市民化新生代农民工市民化的新趋势——结构化理论视角」『理论月刊』(3):171-174.

Xu, Qiong and Yeung, Wei-jun Jean, 2013, “Hoping for a Phoenix: Shanghai Fathers and Their Daughters,” *Journal of Family Issue*, 34 (2):184-209.

張青根・沈紅, 2016, 「“一紙文凭”究竟价值几许?——基于中国家庭追踪调查数据的实证分析」『教育发展研究』3:26-35.

Zuo, Jiping, 2012, “Understanding Urban Women's Domestic-Role Orientation in Post-Mao China,” *Critical Sociology*, 40 (1):137-162

(キーワード:一人っ子女性、就労、親子関係)

謝辞:本研究はJSPS 科研費 JK19K02052 の助成を受けたものです。